

## 『ことば』の話

このたび、日本技術士会北海道本部の副本部長を拝命いたしました大熊です。微力ですが会の発展のために尽力したいと思います。

と言っても、果たしてどの程度の気持ちが皆さんに伝わただろうか。やっぱり定型句を並べただけか、いやいや、短い文章だからこそ、無駄を排して意気込みが感じられる。

受ける印象は千差万別であろう。

言葉や漢字の持つ意味を理解し、相手が受ける印象を推察することは大変重要なことと思う。

先日読んだ本(三浦しをん「船を編む」)によると例えば「あがる」と「のぼる」の違いは何なのか? 「あがる」は目的地が明確である行為、「のぼる」はその過程の行為と要約することができるそうで、「家に上がる」「山に登る」などと使い分けられる。

日常、私たちが何気なく使っている「ことば」にも、それぞれに意味を含んでいて、的確な表現とその理解が必要なのだろう。日本語は難しい。

また、エジプトの古代ピラミッドの建造には数万人の労働者が従事したとされているが、吉村作治氏によると、毎年発生したナイル河の氾濫で農業ができなくなったときの公共事業とも言われている。すなわち、各地から集まった言語も文化も異なる農民が、事業を通して言葉が標準化され、文化や物流が活性化し、市が立って度量衡も統一された。さらには、地方に戻った民によって技術移転もなされたという説である。

しかし、当初は言葉が通じ合わなかったためにコミュニケーションが取れず、過酷な労働に対しても労働争議などは起きなかったともいわれている。

大熊 正信 (おおくま まさのぶ)

技術士(建設/総合技術監理部門)

公益社団法人

日本技術士会北海道本部 副本部長



世はまさに情報化の時代である。日夜情報が飛び交い、飛行機内でも通信が可能になった。しかし、電子メールより手紙、手紙より直接言葉を交わすことの大事さが失われつつあるのではないだろうか。

みなさんをご存知の有名な話である。ビクトル・ユーゴが「レ・ミゼラブル」を出版した際に、出版社に送った手紙が「?」であり、答えが「!」であったという世界一短い手紙。「?」には、売れ行きや反響、出版社の感想など、1文字に多くの意味が含まれていたものと思うが、その全てを理解して「!」だったのである。

これはいささか“手紙”とは言い難いものがあるが、両者が共通した価値観を持ち合わせていたからこそ出来たことではないだろうか。

しかし、間違った情報を伝える危うさもある。オレオレ詐欺のように、言葉を交わしても、本質を見抜けなければ、情報を共有したことにはならない。

情報は、発信する側の説明力と、受ける側の聞く力が必要であり、情報多寡の時代の中で、必要な情報を見分ける力を備えておかなければならない。

技術の伝承にあっても、確実に伝えられる言葉の技術が必要なのである。

私も技術士会の一員として、「ことば」を大切に、会員に情報を正確に発信し、共有し、交換する3点セットを大切に、「絆」を深めていきたい。

最後に、本誌が発刊される頃は、今年最大のイベントである全国大会が開催されていることと思うが、全国から集まった会員と言葉を交わし、情報を交換し、友好を深めて、有意義な時間を過ごしていただくことをお祈りしたい。